

# 広報

# ぼし

# キラキラ☆たまみず

平成23年3月31日  
第6号

発行  
[玉水まちづくり協議会]

「玉水まちづくり協議会」の発足をめざして、あわただしく取り組んできました平成22年度も終わろうとしています。その間、住民の方々には、ご理解とご支援を賜りありがとうございました。おかげをもちまして、設立総会や協議会総会をはじめ、城北小学校オープンスクール参加やグランドゴルフ大会等の活動を行うことができました。

さて、まちづくり協議会では各部会を中心に、今年度の反省と来年度に向けた活動計画を策定すべく、協議を重ねています。その中で、一番大切にしていきたいことが、住民の方々の願いや要望等をもとに活動を進めていくことです。住民の方々お一人お一人の願いの実現をめざすことこそ、「玉水まちづくり協議会」の使命だと考えています。

来年度も、今年度同様のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願ひいたします。



[22.11.4 玉水まちづくり協議会総会]



[22.11.10 城北小学校オープンスクール参加]  
〔バスをチャーターして、参加しました。〕



[22.11.20 三世代ふれあい交流グランドゴルフ大会]

子どもたちからご高齢の方まで、グランドゴルフを通して温かい心の交流を図ることができました。

# まちづくり協議会に思う

東日本大震災により、犠牲になられた方々のご冥福を心よりお祈りいたしますと共に、被害者の方々にお見舞いを申し上げ、一日も早い復興をお祈りいたします。

地域の活性化の手段として、行政が地区毎に協議会の設立を指導してきました。私たちが住んでいる城北地区も、昨年に立ち上りました。

その協議会の組織の中に、福祉部会、コミュニティ部会、安心・安全部会、地域振興部会の4つの部会があります。

これらの部会を考えてみると、人と人とのつながりが希薄になってきた結果できた部会です。少し前の時代は、向こう三軒両隣が親しく、井戸端会議をわいわいとしていた時代なら、改めてコミュニティ、安心・安全等協議しなければならない事はなかったでしょう。

どうして、こんな時代になってしまったのでしょうか。

高齢化社会、限界集落、度々のつまりは、無縁社会等という言葉が流行し、隣は何をする人ぞの時代です。



[藤岡奥地区に咲いている梅の花]



この世に無縁の人、何の縁も無い人はいるのでしょうか？私は、何の縁も無い人などいないと思っています。親兄弟親戚等血縁の無い人がもし不幸にしておられても、友人や近所の人がおられるでしょう。昔から言われる「遠い親戚よりも近くの他人」です。改めて「声かけ運動」等しなくとも、隣近所が親しく楽しくしていれば安心・安全だったのです。

東日本大震災の報道をテレビ、新聞等で見聞きするとき、目頭が熱くなり胸が痛くなります。

そんな中、全世界から救援、支援をいただき、懸命に活動されている姿に感動を覚え、本当にありがたいことだと思います。また、日本各地のボランティアの方々が我が事のように活躍されている姿や、被災された人たちが救援物資を受け取られるときの整然と並んでおられる光景を見たとき、他人をいたわり助け合う心がまだまだ十分にあるのだ。人の和、人と人とのつながりは無くなっていない。この温かい豊かな気持ちが日常生活に生かされ、「向こう三軒両隣」が仲良く楽しく暮らせば、過疎化になってきた我が故郷も、コミュニティ豊かで、安心・安全に暮らせる我が城北校区であるのになーと思います。

(藤岡奥 岩谷 晃圓)

# 住民意識調査のお願いについて

昨年、城北地区に「玉水まちづくり協議会」が立ち上げられました。この組織は、城北小学校区に住んでおられる全ての方の参画を得て、よりよいまちづくりを進めるための活動を行っていきます。

そこで、住民の方々の願いや要望等をもとにして活動を進めていきたいと考え、この調査を実施しますのでご協力をよろしくお願ひいたします。

## ○調査の目的

住民アンケートを実施することにより、城北地区住民の方々が「まちづくり協議会にどのようなことを期待しておられるのか」を把握し、今後のまちづくり協議会の活動に反映させていきます。

1. 城北校区が住みよい環境とは、どのようなものですか。
  - ・自然が豊かである
  - ・交通の便がよい
  - ・図書館や美術館などの文化施設が整っている
  - ・体育館やプールなどの体育施設が整っている
  - ・いつでも、書道や絵画、料理教室などで学ぶことができる
  - ・犯罪がない安全なまちである
  - ・隣り、近所の付き合いがあり、お互いに助け合える関係がきずけている
2. どんなときに、生きがいを感じますか。
  - ・田畠に出て農作業に従事しているとき
  - ・図書館や美術館などの文化施設に出かけたとき
  - ・書道や絵画、料理教室などの教室で学んでいるとき
  - ・スポーツをしているとき
  - ・隣り、近所の人とお話をしているとき
  - ・ボランティア活動をしているとき
3. 玉水まちづくり協議会のどんな活動に参加したいですか。
  - ・校区の運動会やグランドゴルフ大会などのイベントの企画、運営
  - ・子どもたちの登下校の見回り隊
  - ・防災マップの作成
  - ・コスモスの栽培
  - ・書道や絵画、料理教室などの運営
  - ・集落探訪ウォーキングの計画
  - ・玉水まちづくり協議会の活動記録の写真撮影
  - ・協議会だより発行などの広報活動
4. 玉水まちづくり協議会に期待することは何ですか。
  - ・城北地区住民の願いや要望をしっかり聞いてほしい
  - ・三世代の人々がふれ合える場を作つてほしい
  - ・広い共同の農業ができる組織を立ち上げてほしい

## ○調査の方法

この広報に入っています「住民意識アンケート」にご記入いただき、各地区の自治会長さんにお届け下さい。各戸に3部配布していますが、足りないおうちもあると思いますので、その場合はご記入いただく方をご家族でご相談下さい。

## ○お知らせ

この6号より、[地区紹介]として城北地区の各集落便りを載せることにしました。第1回目は、野間地区を紹介します。以後、各地区を紹介していきますのでお楽しみに。

なお、執筆をしたいと思われる方がありましたら、ぜひお知らせ下さい。お待ちしています。



## [地区紹介] 野 間

篠山市野間地区は、篠山城の東方、

約3Kmに位置し、地区南に県道篠山丹波線および篠山川が東西に走っています。集落は、県道沿いに、約1Kmにわたって広がっています。また、篠山川の中洲には、篠山藩の雨乞い靈地とされた厳島神社が鎮座し、神社を中心とした豊かな水辺空間が形成されています。

南東方向には、八上城がある高城山が眺められ、東には篠山盆地特有の小丘があり、一部はゴルフ場として利用されています。

さらに、西部には、区画整理された農地が広がり、水稻や丹波黒大豆などが生産されています。篠山市街地から2Km程度という立地条件から、近隣に篠山中学校

や障害者支援センターなどの公共施設が立地し、幹線市道整備の計画も進められています。

その一方で、少子高齢化、それにともなう農業離れが進んでおり、農業の活性化や土地の適正利用によって、こうした問題を解決していくことが課題となっています。

(野間 酒井 民男)



[南東の方角より、野間地区を望む。]